

無量壽

寺報 むりょうじゅ
No.004
平成23年4月3日
発行
雲夢山 壽命寺

東日本大震災に寄せて

とてつもなく大きな地震とそれによる津波が東北から東日本一帯を襲いました。地震が起きたとき私は庫裏にいました。ゆったりとした長い横揺れに、さては遠くで大きな地震があったのでは、とテレビをつけました。間もなくしてこの世のものとは思えない惨劇が目飛び込んできました。琵琶湖には津波は起こりません。でももし海だつたとして今回のような津波が起これたら、お寺はひとたまりもなく濁流に飲み込まれているでしょう。今回被災された人たちがどれほど恐ろしく、辛く、悲しい思いをされ

たか。我が事として想像すると体が震え、涙が溢れてきます。

週明けの早朝から、滋賀組の若手僧侶有志で堅田駅前などで募金活動を行いました。五日間で約八〇万円のお金が集まりました。しかし金額以上に皆さんの「何とか力になりたい」という想いを集めさせていただいた気がしています。中学生の女の子がお金を箱に入れてながら、恥ずかしそうに、でもしつかりとした口調で想いを伝えてくれました。「こんなふうには、みんなに、支援の輪が、広まっていく事が、とても、うれしいです」

「摂取の心光、つねに照護したまふ。すでによく無明の闇を破すといへ

ども、貪愛・瞋憎の雲霧、つねに真実信心の天に覆へり。たとへば日光の雲霧に覆はるれども、雲霧の下あきらかにして闇なきがごとし」

正信偈の一節です。阿弥陀如来の救いを光に譬え、煩惱の雲がそれを覆い隠しても、その下にもちやんと慈悲の光が届いていと示されています。しかし普段の私は曇天を見ても薄暗いと愚痴るばかりで、そこに光を感じる事はありません。そして日が暮れて初めて昼間の明るさに気がつくのです。災害を機に人々の想いの力や、つながりの大切さに改めて気づかせていただきました。けれども同時に、こういうことになるまでそんな当たり前の事を意識できない自分の愚かさも思い知らされました。そのことを恥じつつ、それでも気づくことが出来た事に感謝して、忘れぬよう努めたいと思います。その上で、自分

やお寺に出来る事は何か、皆さんと一緒に考え、行動していきたいと考えています。

合掌

■義援金のお願い

この度の震災への義援金を本山で受け付けています。既に各所でご協力頂いている事とは存じますが、今回の被災地には息の長い支援が必要です。改めてご協力頂ければと思いますので、ご案内させていただきます。

郵便振替
01000014169957
加入者名 たすけあい募金
通信欄に「東北地震」とご記入ください。

永代経のご案内

五月二十二日 昼 午後二時から
夜 午後七時半から

ご講師 鳥羽正和 師

(本願寺派布教使)

福井教区・若狭組・徳成寺 住職

永代経はこれからも永きにわたってお念仏のみおしえが伝えられ、またその道場であるお寺が護持されていくことを願って努められる法要です。

ご講師は住職出身の今津のお寺がよくお招きしていた先生で、優しくユーモア溢れる語り口で、親しみやすくみおしえをお伝えくださいます。ぜひお参りください。

壽命寺ニュース

(090-4296-3907) にか

けて頂いても結構です。

★第十九世住職 慶喜院釋良敏ご往生

去る三月二十五日、壽命寺の第十九世住職を勤められた三上喜美子さんがご往生されました。九十四歳でした。喜美子さんは第十八世住職 諦聴さんの坊守として、壽命寺に来られました。諦聴さんが先に亡くなられたため、その後住職となってお寺の護持発展に尽くされました。二十八日の通夜、二十九日の葬儀には多くの方々にご参列たまわり誠にありがとうございました。また役員の方々にはお手伝いにご苦労いただきました。厚く御礼申しあげます。

★固定電話開設

お寺に固定電話がつけました。番号は572-5125です。ファックスも同じ番号です。これまで通り住職の携帯電話

★ホームページ開設

お寺のホームページを作りました。お寺からのお知らせなど随時更新していきますので、インターネットをお使いの方は是非ご覧ください。またお寺の行事や住職の予定を表示するカレンダーも掲載しています。ご法事の日程調整などの参考にしてください。ただし日程を最終的に決定される際は必ず住職までご確認ください。

★坊守が得度

坊守が得度を受け僧侶とならせていただきました。三月六日から十日間、西山別院にて習礼を受け、最後に本山の御堂にてご門主さまにおかみそりをあてていただきました。いづれ法事などを勤めさせていただきます。ご縁もあらうかと思えます。その際はよろしくお願ひします。

*坊守よりご挨拶

この三月中旬に得度式を受けさせていただきました。私のように仏門に入りたての僧侶を新発意(しんぼち)というそうです。

十一日間の習礼を終えて日常生活に戻り、僧侶としての最初の活動は、この度の大地震によって被災された方々への義援金を募ることでした。

地震が起きた時、まさに得度習礼の最中で、講義室のお名号の両脇に掛けられた輪灯が、長い時間揺れ続けました。

講義の後、緊急の連絡として地震が起きたことが私達に知らされました。ただ、具体的な内容までは伝えられず、習礼中は外部の情報を得られないなかにあつて、指導員から緊急連絡があることで、ただことではない事態が起こっているのだと察知しました。

翌日の日没動行を終えると、ある指導員の方が、こう仰いました。「今、この国は『こんな日本にはなつて欲しく無い』日本になつていきます。」福島原発の建物が爆発、崩壊したこと

を知らされました。

衝撃的な写真が掲載された新聞が毎日毎夕掲示板に張り出され、私達は少しずつでことができました。そんな中にあつて、この守られた環境のなかで習礼を続けなければならぬ。そのギャップに歯痒さ、無力感を味わいました。

指導員の方が、私達に、励ましとも、願ひともとれる発言をされました。「今君たちにできることは、ただしっかりと習礼を勤めて得度式を迎え、僧侶として世の中に出て行くことです。そして、この地震をふまえて、自分たち

に何ができるのか、どう向き合えばいいのか、考えながら僧侶として生きていって欲しい。」いままもなお事態は収束せず、これからもいろいろな問題が起きると予想されるなか、一僧侶としてできることを考え、行動したいと考えています。

編集後記

▼入寺してはや丸三ヶ月。代務住職の結城先生のご提言で、住職としてやっていける見極めが付くまで、正式な就任手続きは保留してきました。未だしっかり勤められると言い切る自信はありませんが、皆さんに支えていただきながらなら、なんとか勤めさせていただけるという感触も得ました。新年度を迎えたこの機に正式に住職に就かせていただきます。改めましてどうぞよろしくお願ひします。▼初仕事がこの寺報です。代務住職が付けてくださっていた「無量壽」のタイトルを引き継ぎ、内容も見よう見まねで、何とか印刷に漕ぎ着けたという感じです。今後は創意工夫をこらして、より充実した紙面を目指します。いすれはみなさんにもご参加頂くコーナーも考えたいと思いますので、どうぞ協力よろしくお願ひします。